

授業改善推進プラン < 美術科 >

(美術) 科における令和7度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・ 表現について、生徒が身近に感じる題材の設定や、導入の指導を工夫したことで授業に主体的に取り組む姿が見られた。
- ・ 生徒の理解を深めるために、導入や鑑賞活動の指導において ICT 機器や教材を活用する場面を設定した。
- ・ 表現・鑑賞ともに、生徒の造形的な視点を育むための手立てを工夫した。

<課題>

- ・ 生徒自身が学びに向かうための教材づくりと協働的な学びを実施する授業づくりを意図的・計画的に行っていく。

(美術) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	○表現について ・ 生徒が身近に感じる題材を設定し、導入を工夫することで、主体的な学びを実現し意欲的に主題を生み出す姿が見られた。 ・ 生徒の造形的な視点を育むために、導入の鑑賞活動で造形に関する用語を使用する機会を多く設けたことで、その後の制作活動においても造形的な視点を働かせて制作に取り組む姿が多く見られた。 ○鑑賞について ・ 今後も話し合い活動や自分の考えを書き留める活動など通して、作品の造形の要素と感じたことなどをつなげて捉える視点を育む必要がある。
観点別結果の分析	○「知識および技能」について、発想・構想の能力をひとつながりとして捉え、表したいことが表せるように教材開発をする必要がある。 ○「思考力・判断力・表現力等」について、生徒の思いが造形の要素とつながり、表したいイメージをもって表現できるよう指導する必要がある。 ○「学びに向かう力・人間性等」について、生徒が表現の過程で自分なりに工夫でき、意欲的に取り組める題材を設定する必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・ 学習指導要領の〔共通事項〕を意識し、形や色彩などの性質や効果を理解した上で、表現や鑑賞の活動を行うよう指導する。

(美術) 科の授業改善策

- ・ 表現活動においては、導入の指導を工夫し、形や色彩など性質や効果を実感的に理解できる場面を設定する。
- ・ 鑑賞活動においては、生徒が自分の見方や感じ方を大切にしつつ、なぜそう感じたのか、なぜそう思ったのか、という根拠を造形要素と関連付けて説明したり話し合ったりする活動を取り入れる。

